

## 2022年度 広報室 広報渉外委員会 方針（案）

委員長／嶋村 翔      副委員長／板谷 至康      委員会幹事／松川 勝弘  
 委員／越後 恒   岡本 壮一郎   田代 聡太郎   橘 実里   馬場 敬太   松井 久紀  
 安田 洲梧

委員長 嶋村 翔

1 SNSをはじめとする情報ツールの飛躍的な進歩により情報が多種多様な方法で取得が  
 2 できる昨今、デジタルの重要性がこれまで以上に高まる中で広報手法の強化や対外との協  
 3 力はますます重要な役割となります。地域発展に向けて活動量と賛同者が増えることを目  
 4 指し取り組む中で、外部への発信と交流がより活発になり地域に共感が広がり大きな波及  
 5 効果を生む運動が必要とされています。

6 まずは、先輩諸兄や関係団体、各地青年会議所の方々と確固たる協力体制を築くために、  
 7 活動の制限がある状況であってもさらなる意欲をもって臨む決意表明をし、活動方針や組  
 8 織体制をお披露目することで、活動に対するご理解とご賛同をいただきます。そして、我々  
 9 函館青年会議所の活動に対し共感の輪を広げるために、ホームページと各種SNSの特性  
 10 や有効な活用方法を試行錯誤しながら今後も継続すべき取り組みの取捨選択をし、過去か  
 11 ら受け継がれた函館青年会議所の伝えたい想いや運動の発信を行うことで、地域住民の理  
 12 解につなげます。さらに、組織の発信力をより高めるため、メンバー一人ひとりが情報発  
 13 信に対し効果的な知識や手法を知る機会を創出し同時にその知識を生かし実体験を行うこ  
 14 とで自身のスキルアップへとつなげ、組織の成長につながる相乗効果を生んでいきます。  
 15 また、地域の方々との交流促進とメンバーの絆を深めるために、地域住民とふれあえる機  
 16 会を創出し、直接ふれあうことでメンバー一人ひとりが地域を盛り上げる活動に対し当事  
 17 者意識をもつことでより活動に対しての意欲を高め、地域住民の認知を高めると同時にメ  
 18 ンバー間の一体感の醸成へとつなげます。

19 メンバーと組織が広報に対し多様な知識を積み重ね、より活動的な行動によって新たな  
 20 広報体制を確立した我々は、地域との交流が活発化し共感から同志へと昇華し大きな波及  
 21 効果を生む組織として飛躍します。

### 22 事業計画

- 24 1. 1月例会新年交礼会の運営
- 25 2. 4月例会の運営
- 26 3. 8月例会ワッシュイはこだての運営
- 27 4. 新入会員の拡大
- 28 5. 各会員及び出向者への協力
- 29 6. 各種大会・会議への参加

### 30 年間事業フレーム

31